

『どれにしますか?』 3歳児 12月 伏見こども園

エピソード

伏見ハウス(赤い屋根の家)でごちそうづくりをしているAちゃん。大きなお椀や小さなお皿、コップに泥や石、落ち葉をのせてスープやコーヒーをつくり、並べて遊んでいました。そこへBちゃん、Cちゃん、Dくんが次々にやって来てAちゃんのつくったごちそうを見ている。保育者が「おいしそうのごちそうがいっぱいだね」と近くにいた子ども達に声を掛けると、Aちゃん「これスープやねん。これはコーヒーね」、Bちゃん「おいしそうだね」と、話をしています。

しばらくした後、Cちゃんはピンク色のお盆を取りに行き、伏見ハウスに戻ってきました。Cちゃんが「いらっしやいませ」と声を出し、その呼びかけに誘われて保育者が近づくと、Cちゃんはピンクのお盆を見せながら「どれにしますか?」と、尋ねました。保育者「何がありますか?」、Cちゃん「これはコーヒーです」と、お盆にかかれていた一つの絵を指さしながら伝えます。保育者「じゃあ、コーヒーにします」、Cちゃん「はい、コーヒーです」と並べてあったコップを手渡しました。保育者がコーヒーを飲み、「おいしかったです」と伝えると嬉しそうにし、周りの子ども達も微笑んでいました。

子どもの育ちや学び

これスープやねん。
(ごちそうをつくる**楽しさ**)



おいしそうだね
(友達がしていることへの**興味**)

どれにしますか?
これはコーヒーです
(言葉のやりとりをする**楽しさ**)



はい、コーヒーです
(**楽しさ・嬉しさ**)



- ・伏見ハウスに集い、友達と空間を共有する。
- ・泥や石、落ち葉を食べ物に見立てる。
(生活経験)

- ・お盆をメニュー表に見立てて使う。
(生活経験・道具を選んで使う)

- ・遊びに必要な言葉を使い、簡単なやりとりをする。



保育者の思い

- ・泥や石、落ち葉を使ってごちそうづくりを繰り返し楽しんでいきます。近くにある泥や石に目を向けたり、園庭に落ちていた木の葉に興味をもったりしたことで身近にある自然物を使ってごちそうをつくっています。
- ・今までは3歳児の遊びの場でごちそうづくりをしていましたが、使いたい用具を伏見ハウスに運んで遊ぶようになってきました。赤い屋根や木の台がある様子が店屋をイメージさせ、この遊びにつながったと感じました。また、木で囲われている伏見ハウスが友達と集う楽しい空間になっています。
- ・Cちゃんがピンク色のお盆をメニュー表に見立て、お盆にかかれていた絵を一つ一つの食べ物にしているところが面白いと感じ、笑みがこぼれました。Cちゃんの「どれにしますか?」の質問に言葉を返したいと思い、言葉のやりとりを続けました。

家庭だったら・・・

子ども達と関わる中で、面白い考えや、大人では思い付かないようなものの使い方に出合い、思わず笑みがこぼれてしまうことがあります。ご家庭でも子どもの面白い考えや発想に心を寄せてみてください。